



ぷちゅレ

19

エロハ。ヒ花音ちゃん
ふええっち



**他にもガチなエロシチュエーション
が盛りだくさん!!!!**

★サンプルはぼかし加工をしております。

★サンプルは白抜き処理を施してあります。

花音ちゃんのエロハピでふええっちなシーンの数々に
思わずおち○ちんがのっぴのびトレジャー！

イツちゃう！悶々する事間違いなし!!!!

これだけ入ってお値段たったの200円!!(税別)

シーン21
お尻ペンペン&お漏らし



先輩「ペロペロ…ペロペロ
花音「やあ！何を…やめ！
先輩「何って…綺麗にして
花音「いやあ…!!こんなの

バチンバチン!!
花音「いやあ！痛い！痛いよお！やめて
やめてえええええ!!。」

頼むよ、花音ちゃんの可愛いウンチ、
見たいんだ♡



…もの…本当にするんですか…?
…ウンチを…



Hシーン追加!!

➤
+おまけイラスト1点

シーン22 クンニ



シーン23 和式トイレ
~ウンチ提案お兄さん~



か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties



ふふ、
ええ〜。。。

ちよっ!
(美咲)
花音さん
大丈夫!?



ふええ〜…
は…恥ずか
しいよう。





わああ♡

大きな露天風呂お♡





花音『いつもお疲れ様です。○○さん、これ、や……約束のご褒美です……受け取って下さい。』（ふええ……す……す……す……）
新人スタッフ（以降○○）「ふおおお！花音ちゃん！マジすか……？」

○○「さあ…花音ちゃん、僕のチンポをしごいてみて…」
花音『ふえー！はい…!!分かりました!!』
(ふええ…！ど…どうしよう…。どうすればいいのかな？。)





ステージの上に座り股を開く花音
「うわあ、もうパンティーがぐっしよりだね、
じゃあ、パンティー、脱がすよ。」
『は……はい……』

『じゃあ…挿入するよ…花音ちゃん』
『はい♡よろしくお願いします♡』
『や…優しくして…下さいね…♡』



『イヤアア！何するんですか!?やめて下さい!!やメテエエ!!』
「へへへ：バカなお嬢ちゃんだな、知らない人に着いて
行っっちゃダメって子供の頃親や先生に
教わらなかったか?。」



「ほらほら、しっかりしやぶって。
歯立てたら承知しないよ。」
『ん！ん！んぶううう！！』



腕をしっかりと掴まれ身動きが
取れなくなる花音

『いやあ！離して！離してえ!!』
「おやおや、そんなにお尻を振って、
そんなに挿入れて欲しいのかな？」
「イヤ！ちが！違います!!。」



チ……もう
伸びやがった……
使えねえ女だ……
オイ、行くぞ……。



あ……あ……あ……
あううう……。



あぁ♡あぁ♡あぁ♡
あぁ♡

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ

『誰もいないよね！
本当に誰もいないよね！』
周りを確認し誰もいない
事を察すると
花音はパンツを脱ぎ
その場でしゃがみ込む。





ふええ〜...。

こ……これは……ミシエパンです……
ハロハピのみんなで作りました……。



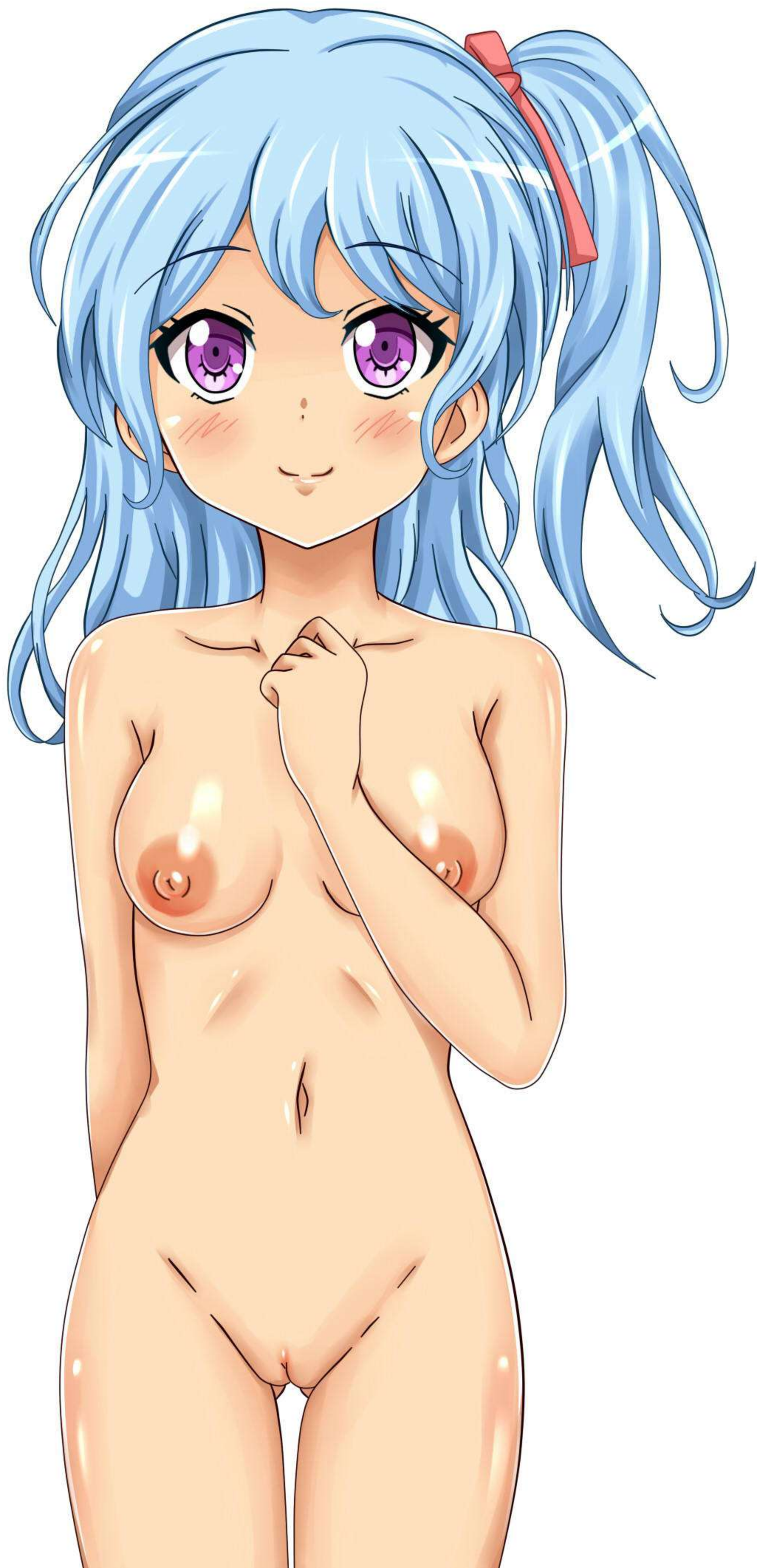
ichelle panties

Matsubara

Kanon



ふええ〜...。



後輩「へへへ、これでもう逃げる事も出来ねえだろ。」
花音「いや……やだ……スカート……返してください……!!」



先輩「あーあ、可哀そうにこんな濡れちゃって」

花音「ひっ……いや……いや……」

先輩「そんなに怯えなくていいよ、今から俺が綺麗にしてあげるからね。」

花音「ふええ……!」

花音（ああ……私……男の人に（マ○コ）……見られちゃってる……恥ずかしい……）



あ……あの……本当にするんですか……？
その……ウ……ウンチを……。

頼むよ、花音ちゃんの可愛いウンチ、
見たいんだ♡





つ、い、え、え、つ、い、え、つ、い、え、つ、い、え、つ

そこのかわいい
お嬢さん、りんご

はいらんかね？

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties



か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡

Michelle panties



か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡

Michelle panties

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties



か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡

Michelle panties

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties

か…かわいいですよね♡

ミ…ミ…ミ…シエパン…♡



Michelle panties



ふふ、ええ〜。。。

ちよっ! (美咲)
花音さん
大丈夫!?













ふふ、ええん...。

ちよっ! (美咲)
花音さん
大丈夫!?













ふええ〜…
は…恥ずか
しいよう。

は…恥ずかしいけど…
(皆が褒めてくれて)
ちよつと嬉しいかも…



ああ！花音！！
なんて偉い！！

素敵よ花音！！

花音先輩、
流石です！！





























ふんふん!!

にゅっ♡











わああ♡

大きな露天風呂お♡



わああ♡

大きな露天風呂お♡



わああ♡

大きな露天風呂お♡

























































































































































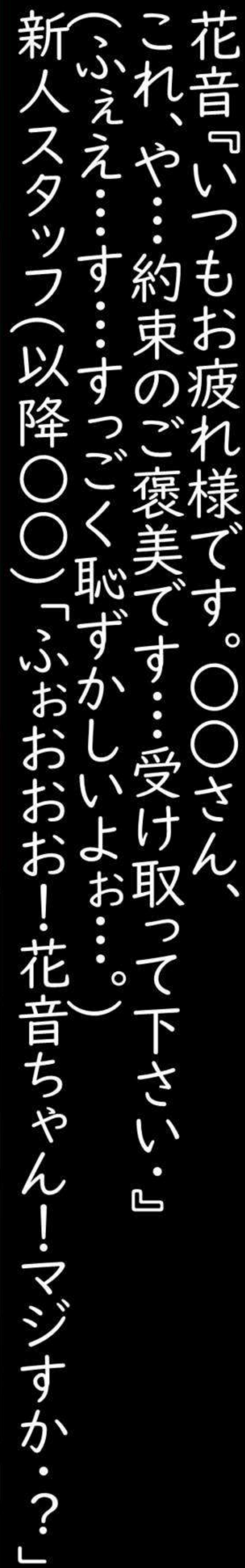






〜シチュエーション〜

いつもハロハピの為に頑張っでくれてる
新人スタッツフ君（かなりドスケベ）
にHなお礼をする花音ちゃん。



花音『いつもお疲れ様です。○○さん、これ、や……約束のご褒美です……受け取って下さい。』
（ふええ……す……す……す……ごく恥ずかしいよお……。）
新人スタッフ（以降○○）「ふおおおお！花音ちゃん！マジすか？」



〇〇「ハアハア!!花音ちゃんの生おパンツ!生の!!
ふおおおおお!目に焼き付けておかないと!!」
マジマジと花音の股間を凝視する変態新人スタッフ君。
花音『ふええ…そ…そんなに見つめないで下さい…は…恥ずかしい…です…』



花音『ハアハア……』
（ど……どうしよう……じっと見られてたら……すっごく『えっち』な
気分になってきちゃった……）
○○（おっ！これはあ!!。もしかして!。）



○○「花音ちゃん…もしかして…感じちやってる…?」
花音『ふええ…!そ…そんな…違います…感じてなんて…
ハアハア…ハアハア…』
○○「でも…お汁、垂れてるよ…。」 花音『え…ふえええ!!。』



花音『これは…その…汗です…ライブでその…
たくさん動いたから…』○○「本当かなあ(ニタニタ)。」
花音『ほ…本当です！もう、○○さんの意地悪…もう
見せてあげませんよ！』○○「わあごめん！許してえ!!。」



花音『いつもお疲れ様です。○○さん、これ、や…約束のご褒美です…受け取って下さい。』（ふええ…す…す…す…く恥ずかしいよお…。）新人スタッフ（以降○○）「ふおおお！花音ちゃん！マジすか…？」

〇〇「ハアハア!!花音ちゃんの生オマ〇コ!生の!!
ふおおおおお!目に焼き付けておかない!!。パイパンたまらん!」
マジマジと花音の股間を凝視する変態新人スタッフ君。
花音『ふええ…そ…そんなに見つめないで下さい…は…恥ずかしい…です…』





花音『ハアハア……』
（ど……どうしよう……じっと見られてたら……すっごく『えっち』な
気分になってきちゃった……）
○○（おっ！これはあ!!。もしかして!。）



○○「花音ちゃん…もしかして…感じちやってる…?」
花音『ふええ…!そ…そんな…違います…感じてなんて…
ハアハア…ハアハア…』
○○「でも…お汁、垂れてるよ…。」 花音『え…ふえええ!!。』



花音『これは…その…汗です…ライブでその…
たくさん動いたから…』○○「本当かなあ(ニタニタ)。」
花音『ほ…本当です！もう、○○さんの意地悪…もう
見せてあげませんよ！』○○「わあごめん！許してえ!!。」



花音『いつもお疲れ様です。○○さん、これ、や…約束のご褒美です…受け取って下さい。』（ふええ…す…す…す…く恥ずかしいよお…。）新人スタッフ（以降○○）「ふおおお！花音ちゃん！マジすか…？」

〇〇「ハアハア!!花音ちゃんの生オマ〇コ!生の!!
ふおおおおお!目に焼き付けておかない!!。薄っすらお毛毛がたまらん!」
マジマジと花音の股間を凝視する変態新人スタッフ君。
花音『ふええ…そ…そんなに見つめないで下さい…は…恥ずかしい…です…』





花音『ハアハア……』
（ど……どうしよう……じっと見られてたら……すっごく『えっち』な
気分になってきちゃった……）
○○（おっ！これはあ!!。もしかして!。）



○○「花音ちゃん…もしかして…感じちやってる…?」
花音『ふええ…!そ…そんな…違います…感じてなんて…
ハアハア…ハアハア…』
○○「でも…お汁、垂れてるよ…。」 花音『え…ふえええ!!。』



花音『これは……その……汗です……ライブでその……
たくさん動いたから……』○○「本当かなあ(ニタニタ)。」
花音『ほ……本当です！もう、○○○○さんの意地悪……もう
見せてあげませんよ！』○○「わあごめん！許してえ!!。」

それからも新人スタッフ君は花音ちゃんのご褒美をエサにいつも以上にライブの準備に奮闘するのであった。

そして花音も見せる度にどんどんイケナイ快感を感じてしまうように……

そして2人の欲望は

どんどんエスカレートしていき……！

続く……



























































































頑張ったご褒美
〜シチュエーション②〜

いつもものように新人スタッフ君に
ご褒美をスる花音ちゃん。
でも今日は新人スタッフ君の様子
少しおかしいように……



花音『○○さん、いつも本当にありがとうございます。良かったらご褒美……受け取って下さい……。』
○○「花音ちゃん……！いつも本当にありがとう……。君のおぱんつを見るのが僕の仕事の何よりのモチベーションアップだよ……。」



〇〇「ああ……でも……う……う……!!」
花音（あれ、〇〇さんどうしたんだろう?。）
〇〇は股間を抑えながらずっともじもじしている……。
〇〇「あああああー! もう無理だ! 限界だ!」



花音『ふえええ！ど！どうしたんですか？。』
○○「ごめん！実は最近忙しくってここー週間……
その……オナニーしてないんだ……。」
花音『ふえええ！オ！オナ……（もぐもぐ）……ですかあ？。』

○○「頼む、花音ちゃん。俺のちんぽを……ちんぽを気持ちよくしてくれないか？」「じゃないと俺……このままじゃ理性が効かなくなつて君を犯してしまいそうだ！頼む！」
土下座して頼む新人スタッフ君。
花音『いえええー！ど……どうしよう……。』





〇〇「頼むー！この通り!!」
花音（ふえええ……どうしよう……〇〇さん困ってるし……
でも……私……男の人の……あれ……触った事無いけど……）
しばし悩む花音……そして……



花音『○○さん……。分かりました。顔を
あげて下さい……。私でよかったら、あなたが笑顔に
なってくれるのなら……。私……。頑張ります!!』
○○「本当かい! わあい! じゃあ早速!!」
もう我慢出来ん……。とばかりに己の肉棒を差し出す○○……



ボロン！ ○○「さあ！頼むよ！もう限界だ！」
花音（ふえええ！お！大きい……！）
○○「か！花音ちゃん！早く！もう待ちきれないよー！」
花音『は！はい！すみません！』

○○「さあ…花音ちゃん、僕のチンポをしごいてみて…」
花音『ふえー！はい…!!分かりました!!』
(ふええ…！ど…どうしよう…。どうすればいいのかな？。)



〇〇「こわがらないで……ここを握ってみて……」
花音『は……はい……』（ふええ……！すごい……ビクンビクンしてる……）
〇〇「そのままゆっくりとこすってみて。」
花音『は……はい……』



（あ、また更におっきくなって…ほかほかしてて、
ビクビク動いてる、ちよっと可愛いかも。）
こすこす…こすこす… 両手でぎこちなくチンポをこする花音。
『んしょ…んしょ…』



だんだん慣れてきた花音
花音『どうですか？気持ちいいですか？』
○○「ああ…いいよ花音ちゃん…」



新人スタッフ君はとても気持ちよさそうな顔をしている…。
（最初はすごくビックリしたけど、
○○さんが笑顔で喜んでくれるなら、私頑張る！。）
花音『気持ち良くな〜れ♪気持ち良くな〜れ♪』



〇〇「あああ！もうダメだかのちゃん！俺イクイクよおおお!!」
花音『ふえ？イクってー!?!』



〇〇「あああああ！イクイク！イクウウ！！
ビュル！！ビュルル！！
花音『きゃあああああ！』



……… 呆然とする花音
花音『……ふ……ふえ……?』
○○「ふう……。あ……。」シーンと静まり返る。



○○「あっ！ごめんね！花音ちゃん、ビックリしちゃった？
それに体にかかったね、本当にゴメンね！」
花音『いーいえ、いいんです。ちょっとビックリしただけですから♪
それよりも○○さんが気持ちよさそうで私も嬉しいですよ♪』



そして…

〇〇「本当にゴメンね花音ちゃん、制服のクリーニング代、俺が責任もって払うから。」

花音『いえ、いいんです、気にしないで下さい。』

〇〇「でもそれじゃ俺の気持ちさが…。じゃあ他に何か花音ちゃんに出来る事ないかな？俺で良ければ何でもするから！」

花音『ふええ！な…。何でもですか…。』

〇〇「うん、俺の出来る範囲でだけと…」

花音『そ…それじゃあ…。その…』やたらともじもじする花音。

（どうしよう…。こんな恥ずかしい事頼んでいいのかな…。でも…

私ももう…。限界かも…!!）



花音『じ…実はその…私…〇〇さんのオチンチンをこすって…
すぐく変な気持ちになっちゃって…その…』
恥ずかしそうにまたスカートをたくし上げパンツを見せる花音。
パンツは愛液でぐっしよりと濡れている…
〇〇「花音ちゃん…。」 それを見て察した新人スタッフ君。



○○「花音ちゃん、ごめんね、俺、自分の事ばかりで
花音ちゃんの事全然考えてなかったね。
今度は俺が花音ちゃんを気持ちよくしてあげるね。」
花音『は……はい……よろしく……お願いします。』
そして今度は新人スタッフ君が花音を慰める事に……

続く……。

○○「さあ…花音ちゃん、僕のチンポをしごいてみて…」
花音『ふえー！はい…!!分かりました!!』
(ふええ…！ど…どうしよう…。どうすればいいのかな？。)



○○「こわがらないで……ここを握ってみて……」
花音『は……はい……』（ふええ……！すごい……ビクンビクンしてる……）
○○「そのままゆっくりとこすってみて。」
花音『は……はい……』



（あ、また更におっきくなって…ほかほかしてて、
ビクビク動いてる、ちよっと可愛いかも。）
こすこす…こすこす…こす… 両手でぎこちなくチンポをこする花音。
『んしょ…んしょ…』



だんだん慣れてきた花音
花音『どうですか？気持ちいいですか？』
○○「ああ…いいよ花音ちゃん…」



新人スタッフ君はとても気持ちよさそうな顔をしている…。
（最初はすごくビックリしたけど、
○○さんが笑顔で喜んでくれるなら、私頑張る！。）
花音『気持ち良くな〜れ♪気持ち良くな〜れ♪』



○○「あああ！もうダメだかのちゃん！俺イクイクよおおお!!」
花音『ふえ？イクってー！？』



〇〇「あああああ！イクイク！イクウウ！！
ビュル！！ビュルル！！
花音『きゃあああああ！』



……… 呆然とする花音
花音『……ふ……ふえ……?』
○○「ふう……。あ……。」シーンと静まり返る。



○○「あっ！ごめんね！花音ちゃん、ビックリしちゃった？
それに体にかかったね、本当にゴメンね！」
花音『いーいえ、いいんです。ちょっとビックリしただけですから♪
それよりも○○さんが気持ちよさそうで私も嬉しいです♪。』



〇〇「さあ…花音ちゃん、僕のチンポをしごいてみて…」
花音『ふえー！はい…!!分かりました!!』
(ふええ…！ど…どうしよう…。どうすればいいのかな？。)



〇〇「こわがらないで……ここを握ってみて……」
花音『は……はい……』(ふええ……！すごい……ビクンビクンしてる……)
〇〇「そのままゆっくりとこすってみて。」
花音『は……はい……』



（あ、また更におっきくなって…ほかほかしてて、
ビクビク動いてる、ちよっと可愛いかも。）
こすこす…こすこす… 両手でぎこちなくチンポをこする花音。
『んしょ…んしょ…』



だんだん慣れてきた花音
花音『どうですか？気持ちいいですか？』
○○「ああ…いいよ花音ちゃん…」



新人スタッフ君はとても気持ちよさそうな顔をしている…。
（最初はすごくビックリしたけど、
○○さんが笑顔で喜んでくれるなら、私頑張る！。）
花音『気持ち良くな〜れ♪気持ち良くな〜れ♪』



〇〇「あああ！もうダメだかのちゃん！俺イクイクよおおお!!」
花音『ふえ？イクって！？』



〇〇「あああああ！イクイク！イクウウ！！
ビュル！！ビュルル！！
花音『きゃあああああ！』



……… 呆然とする花音
花音『……ふ……ふえ……？』
○○「ふう……。あ……。」 シーンと静まり返る。



○○「あっ！ごめんね！花音ちゃん、ビックリしちゃった？
それに体にかかったね、本当にゴメンね！」
花音『いーいえ、いいんです。ちょっとビックリしただけですから♪
それよりも○○さんが気持ちよさそうで私も嬉しいですよ♪』



〇〇「じゃあ花音ちゃん、ステージの上に座って
股を広げて見てくれるかい?」
花音『はい……分かりました……』





ステージの上に座り股を開く花音
「うわあ、もうパンティーがぐっしよりだね、
じゃあ、パンティー、脱がすよ。」
『は……はい……』



〇〇「オマシコもバツチリ濡れ濡れだね、これなら
スムーズに指が入ると思うよ、じゃあ、いくね……」
花音『は……はい……よろしくお願いします。』



ずぶ…ずぶ…ぐちゅ…ぐちゅ…
『ああん♡指が！中に！中にはいってえ♡』
「くうう！花音ちゃんのオマニコの中！」
あったけええ!!」

A full-page illustration of a blue-haired anime girl with a surprised or excited expression, sitting on a large, muscular leg. She has light blue hair with a green ribbon and a yellow flower accessory. She is wearing a brown school uniform with a white collar and a red bow. The leg she is sitting on is large and muscular, with a dark blue sock and a white shoe. The background is dark and indistinct.

A full-page illustration of a blue-haired anime girl with a joyful expression, sitting on the thigh of a large, muscular man. The girl has light blue, wavy hair with a green ribbon and a yellow flower accessory. She is wearing a brown school uniform with a white collar and a red bow. The man's leg is prominently featured, showing a large, muscular calf and a dark blue sock. The background is a simple grey floor.

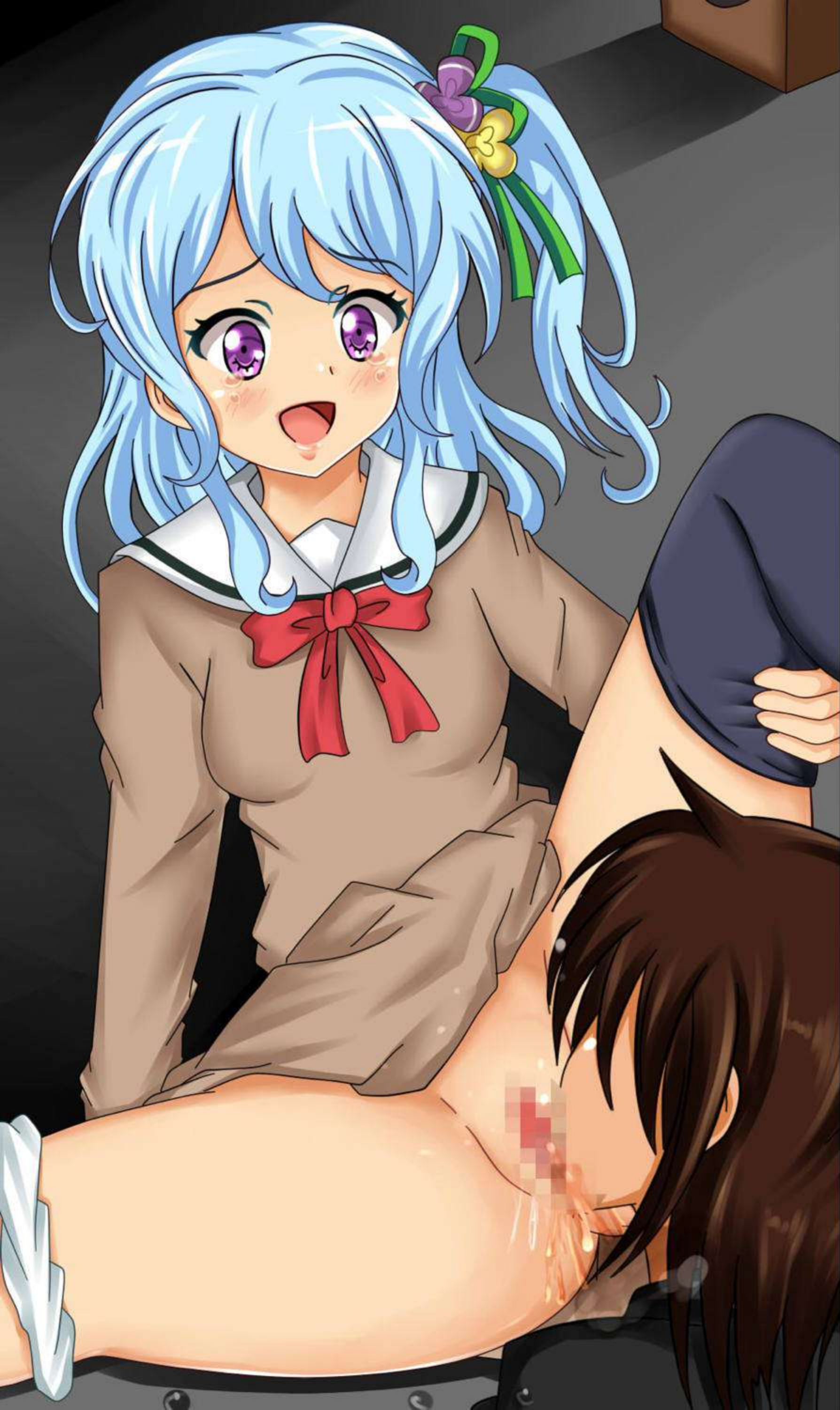
A full-page illustration of a blue-haired anime girl with a joyful expression, sitting on the thigh of a large, muscular man. The girl has light blue, wavy hair with a green ribbon and a yellow flower accessory. She is wearing a brown school uniform with a white collar and a red bow. The man's leg is prominently featured, showing a large, muscular calf and a dark blue sock. The background is a simple grey floor.



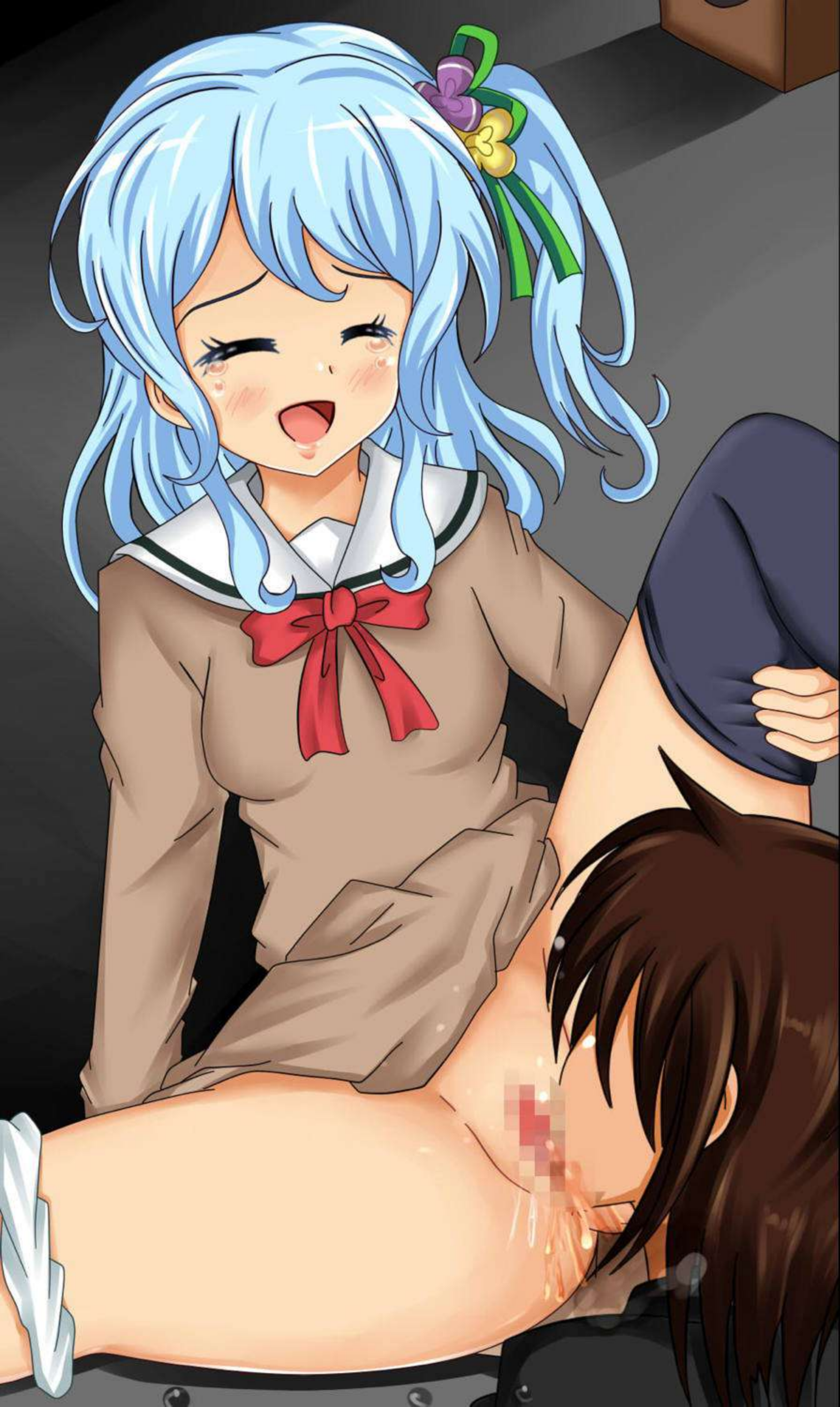
『あああああ！イクイク！イツちゃっつっつ！！』
花音の絶叫と共に股間から愛液が噴射する！！
「ああ！花音ちゃんのマン汁！勿体ない！！」



『あっ♡あっ♡イヤン♡そんなところ!!
舐めちゃ!汚い!...ですよぉ♡』
「花音ちゃんに汚い所なんてあるもんか!」



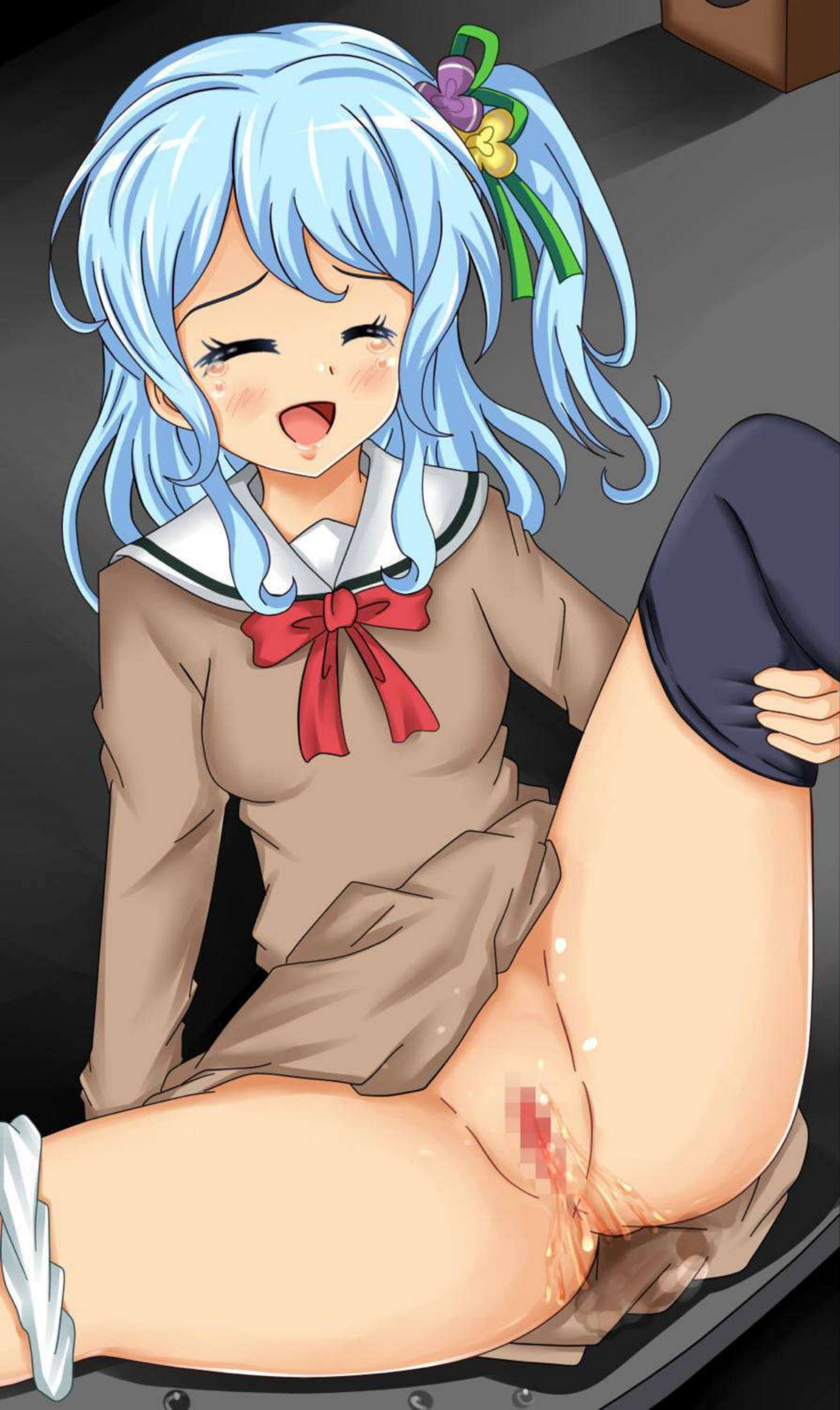
ぺろぺろ…ぺろぺろ…
無我夢中で花音の愛液を舐めとる…
『あっ♡あっ♡くふふ！ダメ♡ダメエエエ♡
くすぐったいですう♡あっ♡あっ♡気持ちいいよお♡』
くすぐった気持ちいい快感に花音も思わず笑ってしまう。



ぺろ。ぺろ。ぺろ……。ぺろ。ぺろ……。
『あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡ダメエエエ!!
また! イツちゃ!……。イツちゃいますっ!!。』

『ああああん！イクイク！
イツちやうつうつう！！』
またも花音は愛液を噴射した。





「ぶっはああ♥花音ちゃんのマン汁うめええ!!。」
『ハアハア…♥ふうふう…♥
もう…○○さんたち…赤ちゃんみたいでしたよ♥』
「ご…ごめん…つい我を忘れてたみたいだよ♥」
『いえ、いいんです♥』

それと！

「花音ちゃん…やっぱりこのままじゃ終われないよ…。
セックス…しよう…!」
『○○さん…実は私も同じ事…考えてました♡
恥ずかしくて言えなかったの…:すごく嬉しいです♡。』
「ふええ!マジで!やったあ!!。じゃあ一緒にハッピーラッキーな
エッチしようね♡」『はい、スマイルイエーイ♡ですね♡』



次回、ついに初めてを卒業する
花音と新人スタッフ君……。続く……。

























































『じゃあ花音ちゃん、裸になっってお尻をこっちに向けて♡』
『はい♡』



花音は服を脱ぎ一糸まとわぬ姿になり、
お尻を新人スタツフ君の方に向けてる。

『じゃあ…挿入するよ…花音ちゃん』
『はい♡よろしくお願いします♡』
『や…優しくして…下さいね…♡』



パンパン!!パンパン!!
ピストン音がスタジオに鳴り響く。
『あん♡あん♡あん♡ダメエ!声!出ちゃう!!』
『大丈夫、今このスタジオには僕と花音ちゃん
しかいないから安心して声出していいよ♡』



パンパン!!パンパン!!
『あんあん!だんだん!気持ちよくなつて
きました♥』
『僕もだよ花音ちゃん♥』



パンパン!!パンパン!!
「ハアハア!!花音ちゃん!!
そろそろイクよ!」
「はい!おねっ♡お願いっ
アッ♡…しますう!」



「あー!!イクツ!!」

中にいっぱい！はいってくるうう！！』

ビュルル!!ビュルル!!
「あー!やべえ!精液とまんねええ!!」
「ああああん!ハアハア...!!」



肉棒を引き抜くと同時に
花音も絶頂に達する!!
『ああん! 私も!
私もイッちゃいますうう!!。
プツシャーー!!』





『ハアハア……ぷうぷう♡』

そっけい……

『花音ちゃん、すごく良かったよ♡』
『私も、すごく気持ちよかったです♡』



『花音ちゃん……♡♡♡』
見つめ合う2人……♡

『ちゅっ♡』
2人はキスをして愛を誓い合ったのであった。

おしまい。





















凌辱シチュエーション

く方向音痴娘に襲い掛かる送り狼く

見知らぬ土地で迷子になって困り果ててる花音。そこに優しそうな男性が現れる。

男性は道案内をしてくれるので

着いてきてという。少し迷った花音だが、結局彼の後を着いていくことに……。



『ふええ……ここ何処だろう……困ったなあ……』
「もし？そこのお嬢さん、何かお困りのようで？」
『ふえ！す……すみません、道に迷ってしまっ……ここは
どこでしょう？』
「なるほど、お困りのようですね、よければ僕が最寄りの駅まで
道案内致しましょう。」
『ふえ……でもそんな……迷惑じゃ……。』
「いえいえ、困った人を、それもこんなに綺麗なお嬢さんを
ほっておくなんて男として出来ません」『ふえ！き！綺麗!!』
(ど……どうしよう……でもこのままじゃ一生家に帰れない気がする……)

『じゃあ…お言葉に甘えて…よろしくお願いします。…』
男性はとても優しくエスコートしてくれ、また話も上手で
しかもイケメンだった花音は彼にすっかり心を許してしまっていた。
(良かったあ、親切な人で、それにとっても優しいし、ちよっと
薫さんに似て、カッコイイかも…。)
そして歩く事10分…。



道はどんどん暗い路地裏へと進んでいく……
流石に怪しく感じた花音。

「あ……あの……ここ、どこですか？。」

駅にはまだ着かないんでしょうか？。」

「まあまあそう焦らないで……ここ近道でさ、もうすぐ着くよ……。」

（お前の人生の終着駅にな……!!）

「ああ……そうだ……ここによ……。」

男性は誰かと電話で話してる様子……。

「ごめん、待たせたね、さあ着いたよ……。」



『え……どこ……どこですか？。何もないんですけど……。』
「ククク……ハーハッハハッ!!世間知らずなお嬢ちゃんだ!」
態度が一変する男性。

『も!もしかして私をだましたんですか!!酷い!』
流石にこの状況はマズイ!と思った花音は走って男性から
逃げようとした……。

「おい!そっち行っただぞ!捕まえろ!!」

『ふえ!』ドン!!。



花音が走った先にはもう1人の男性が待ち構えていて、花音は男にぶつかまりつかまってしまう。

『イヤ！離して！離してええええええ!!。』

「へへへ：先輩、かなり可愛いじゃないすか、今まで

犯ってきた女たちの中で1番の上玉だ：♡」

「そうだろう、よし、変われ。これからたっぷり楽しもうね♡
お嬢ちゃん♡」

『イヤアアアア!!ヤダヤダ!!誰か！

誰か助けてえええええ!!。』

『イヤアア！何するんですか!?やめて下さい!!やメテエエ!!』
「へへへ：バカなお嬢ちゃんだな、知らない人に着いて
行っっちゃダメって子供の頃親や先生に
教わらなかったか?。」



もみもみ……。「ほう……。服の上からじゃ分かったが
なかなかいい乳してるじゃねえか♥」
『イヤアア!!やめてやめて!離してください!!
うう!ひどい!こんなのってないよお!!
誰か!誰か助けてえええええ!!。』



ピラッ♡もう1人の男がスカートをめくる。
『イヤ！ヤダヤダ！ヤダアアアアアアアア!!』
「へへへ…なかなか可愛いパンツ
穿いてんじゃない♡」



「じゃあそろそろ犯っちゃいませうか♡
俺もう我慢出来ねえです。」
「おう、そうだな。」
『イヤ!!やだ!!やだやだ!!
誰か!!誰か助けてええええ!!』



花音の必死の叫びも虚しく、
その後花音は男達に
凌辱の限りを尽くされる…。

次回に続く…。







































































シチュエーション

服を剥ぎ取られ全裸に剥かれた花音。
この恰好のまま外に逃げ事は出来ずに
仕方がなく男たちの言う事を
聞くことに……。。



『お願いします。服を…服を返してください…』
「じゃあ、俺たちを満足させてくれたら返してあげるよ。
俺たちのちんぽをフェラしてくれたら考えてあげてもいいかな。」
そういって男たちは下半身を丸出しにする。
『ヒッ!』見た事もない男性の肉棒を見てひるむ花音。
「ほらほらどうした! さっさとしゃぶらねえか。それとも
その格好のまま家に帰るか?」
「は…はい…分かりました…」

「ほらほら、しっかりしやぶって。
歯立てたら承知しないよ。」
『ん！ん！んぶううう！！』



A close-up illustration of a young anime-style girl with light blue hair and purple eyes. She is looking directly at the viewer with a slightly open mouth, revealing a pixelated brown area. She is unclothed, and her chest is visible. The background is dark gray.





「ああ！出る出る！！」
『んんん！んぶんぶんぶん！！』



『ん！んん！！ゴツクン…。』
(うえええええ！ぎぼぢわるい！！。もう無理…！！。)
「はいよくできました、じゃあ次、おい。」
「へへへ、待ってました♥」

『ま！待って下さい…!!。もう無理です…。』
「ああん？口答えすんじゃないやねえ、嫌ならスッポンポンで
外出るか？」
『ひっ!』『お嬢ちゃん、こいつの分も頼むよ』
『わ…分かりました…。』(もうやだ…もう許してえ…!!。)



先程の男とは違い、後輩の男はものすごく乱暴でしかも臭かった。
『んん！おええ！ゲホゲホ!!』
「おい！何むせてやがる！さっさとしゃぶらねえか!!。」
「ごめんねえ、そいつ3日くれえ風呂入ってないから臭いでしょ。
ま、頑張ってしゃぶってあげてよ。」『ん！んん!!んんん!!』



(おええええ！ものすごく臭い！汚い！！気持ち悪いよお！！)
『んん！ん！じゅぷじゅぷ……!!』
「ああ気持ちいいぜえ！最高最高……
さあ……そろそろイーっつかない♡っと。」





「ああ！出る出る！いくぜえ！！」
『んん！んん！んん！んん！んん！！』

「ああああ♥とまらねえー！もう1週間くらい女
犯してねえから精液とまんねえぜ!!」
『んん！んん！んぶぶぶぶっ!!。』
(まだでるの!?もう！もう無理だよお!!)





『んん…んん…!!』
(飲まなきゃ…飲まなきゃ…)
頑張って臭いザーメンを飲み込もうとする花音。

だが…。



『おええええええ！ゲホッゲホッ!!』
あまりにも臭くて粘っ！こいザーメンを飲み込むのは無理だったようだ。
「クソ！このクソアマ!!俺のザーメンが飲めねえってのか!!」
『ゲボ！こめ！こめんなさ!!ゲホッゲホッ!!。』
「あーあ、約束守れなかったねえ。こいつは気分を害してしまったみたいだ…
これはお仕置きだねえ…♡」



『そんな！もう！もう許して!!』
(こんなのもう無理！裸で出た方がまだマシだよお!!)
「あっ！こいつ逃げるか!!」「そうはいかないよ...。」
ただでさえフラフラな花音は、2人にすぐに回り込まれ...

『いや！もう！もうやだ…!!』

「へへへ…逃げられると思うなよお嬢ちゃん。
まだ始まってもないんだぜ…。」
「そうそう、お楽しみはこれからだ…。」

『イヤ！イヤアアアア!!』

次回、とうとう花音は男たちに
初めてを奪われてしまう…!!。

続く…

























腕をしっかりと掴まれ身動きが
取れなくなる花音

『いやあ！離して！離してえ!!』
「おやおや、そんなにお尻を振って、
そんなに挿入れて欲しいのかな？」
「イヤ！ちが！違います!!。」



「じゃあお言葉に甘えて、早速
頂くとしますか♥」
『イヤアア！やめてえ！

やめてええ!!。』



ずぶ…ずぶ…花音の処女マンに
男の肉棒が突き刺さる…

『あぐううう…痛い…痛いよおお!!』

抜いて!ぬいでえええ!!。』

『先輩、やっぱりコイツ処女みたいっすね。』

『初めてが俺で良かったねお嬢ちゃん、絶対に
気持ちよくしてあげるからね♥』

『イヤアア!ヤダヤダ!ヤダアア!!』



パンパン!!パンパン!!
「ああ!締まりのいい処女マンだ…♡」
『あああ!ヤダヤダ!やめてええ!!
やめてえええええ!!誰か!誰か助けてえ!!。』
「ち…流石にちよっとうるせえな…おい。」
「はい!分かりました。」



「おっと、お口がお留守だぜ。
こっちもしゃぶってもらおうか。」
『んんん！んぶっつっつっつ!!』
再び臭くて汚い肉棒が花音の口を覆う。
「よし、じゃあスパークかけるぞ……!!」





パンパン!!パンパン!!
「んっんっんっ!!んふううっ♡」
花音の声に甘い音色が含まれた。だした。
「お、気持ちよくなってきたみたいだね」
「レイプされて感じてるなんて「こイツ相当な変態ですぜ。」
「じゃあ、その変態お嬢ちゃんに
たっぷり注いであげるかなっ♡」
「んんんん!んんんん!」(嘘!うそおお!!。)

ビュルル!!ビュルルルウウ!!
『んんん!んんん!!』
「ああイクイク!2回目で金玉持たねえかもなあ♥」
「こっちも!出!出ますよ♥」
ビュルルルル!!ビュルル!!
『んんんんんん!んんんんんん!!。』





『おえええ！ゲホッゲホッ!!』
「うわっ！コイツまた吐きやがった!!」
「学習能力のねえ女だぜ!!」
「諦めな、お前のクッソきたねえザーメン飲める女なんてこの世にいないよ。」
「先輩まで、ひっでえ。俺あったま来た。口で飲めねえなら下の口に飲ませてやる！先輩！変わって下さい!!。」

「ああ、好きにしろよ、俺はもうザーメン空っぽだぜ。」
「へへへ…久しぶりのセックスだからまだまだ4.5回は
出せるぜ…!!」

『いあ…!!ほう…おあ…!!あああ!』
あまりのショックに言葉を上手く話せない花音
「じゃあ…いきますか…!!」

その後も花音は男たちに何度も凌辱の

限りを尽くされる事に…。



チ……もう
伸びやがった……
使えねえ女だ……
オイ、行くぞ……。



あ……あ……あ……
あううう……。

チ……もう
伸びやがった……
使えねえ女だ……
オイ、行くぞ……。



あ……あ……あ……
あううう……。



















あぁ
あぁ♡あぁ♡あぁ♡

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ
ちゅっ



あー♡

あー!!

あー!!

あー♡

はっ

はっ

はっ

はっ



あっ♡もうダメ♡
イッ...!! イっちゃんしますっ!!

ぷるん!!
ぽん
ぽん

ぷるん!!
ぽん
ぽん



あ♡あ♡あ♡

ああん!!

イッ
ちゃ
う
イッ!!
イッ!!
♡♡

ぷるるる

ぷるるる

ジュッ!!

ジュッ!!





あぁ
あぁ♡あぁ♡あぁ♡

ぽろぽろ

ちゅっちゅっ



あーん!!

あーん!!

あーん!!

あーん!!

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ



あっ♡もうダメ♡
イッ...!! イっちゃんしますっ!!

ブルッ!!

はっ
はっ

ブルッ!!

はっ
はっ



あ♡あ♡あ♡

あぁん!!

イッ
ちゃ
う
っ
!!

イッ
!!

ぷるるる

ぷるるる

ジュッ!!

ジュッ!!























シチュエーション

散歩中に見知らぬ土地に迷い込んだ花音、
途中でお腹が痛くなっ
てしまい：！！。



ふええ……どこ何処お？迷っちゃった……参ったなあ……。



1時間後……

うう……さっきから同じところをグルグル回ってる気がする……
ふええ……どうしよう……ちよつとトイレ行きたくなっちゃった……。



更に1時間後…
『ううう！ニニ何処お！トイレ何処お!!
本当にもう無理…だよお…!!』



ギョルルル…!!
『あああ!もう無理です!だ!誰もいないよね!』
草むらだし!でもやっぱり…!!』
ギョルルル!!
『あああ!無理無理無理無理!』
もう我慢出来ない!!。』

『誰もいないよね！
本当に誰もいないよね！』
周りを確認し誰もいない
事を察すると
花音はパンツを脱ぎ
その場でしゃがみ込む。



『ああああ！
出る出る出る出る！
でるでるでるでる！』



ブリブリ！ブブブ！！
『ああ……こんな所で
ウンチするなんてえ……
恥ずかしすぎるぅ……！！』



ブリブリ！ブブブ！！
『ああああ！早く……！！
早くおわってえ！何で
こんな時に限って
沢山出るのお！？』



『ハアハア……やっと終わった……
早くパンツを……!!
……ハッ!!しまった!
紙がない!
ど!どうしよう!
このままパンツを
穿くのは流石に……!!。』



「うわー！なんじゃこの匂いは！！
クサッってうわああああ！！」
『ひひひひひひ！！』
「なんじゃ君は！そんな所で
何しとるんじゃあ！！」
『ひひひひひひ！！ごめんなさい
ごめんなさい！！』

突如現れた男性にパニくる花音。
男性も人が脱糞してるとは
思わずにビツクリしてしまう。



『あわわわわ！ごめんなさい
ごめんなさいごめんなさい
ごめんなさい！！ふえええん！！』
あまりの恥ずかしさと
驚きで思わず謝る事
しかできない花音。

『ああ！すまんすまん！』
いつまでも見てちゃ失礼だと
男性はその場を
去ろうとする。



『わわわ！待って！
待って下さい！！
何か、何か拭くものを
持ってませんか？。』

「拭くもの！？このタオルを使うといい！」
『あ！ありがとうございます！』
「無我夢中で貰ったタオルでお尻を拭き
パンツを穿く花音。」





『うう……本当に……本当にありがとうございます……!!
それとタオル汚しちゃってすみません。』
「いやいいんじゃないよ、こんな可愛い
娘っ子の役に立てたのなら
タオルの1つや2つ。」



「それよりあんだ、道に迷ったんじゃないか？」
「はい！そうなんです！」
「ここは迷いの森でなあ、猟師のワシらでも目印を
つけんと迷う事あるから気いつけんといけん場所じゃ。
どれ、出口まで案内するから着いて着なさい。」
「はい！ありがとうございます!!。」



そして、花音は優しい猟師のおじさんの
おかげで無事家に帰る事が出来たそうです。

おしまい。































































ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ~...。









































おまけ

以降浣腸 & 脱糞差分です。

苦手な方は閲覧をお控え下さい。













こ……これは……ミシエパンです……
ハロハピのみんなで作りました……。



ichelle panties

Matsubara

Kanon

見せパンだから恥ずかしくない…
恥ずかしくない…。



ichelle panties

Matsubara

Kanon

ふええ〜ん！やっぱり恥ずかしいよお！
もう許してえ〜!! (泣)



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties
Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties
Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties

Matsubara

Kanon



ichelle panties
Matsubara

Kanon



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。



ふええ〜...。







ふええ〜...。



ふええ〜...。

や...優しくして...下さいね....



あんあん♡あんあん♡

パンパン!!
—#—



ハアハア!!もうダメ!!イク!
イっちゃいますう!!!

ぐちゃぐちゃ



アッアッアッアッアッアッ!!
イクイクイツちゃううう!!。
中に！ なかにいいいい!!。
あああああああん♡



ふええ…す…すごく…
気持ちよかったです…♡

























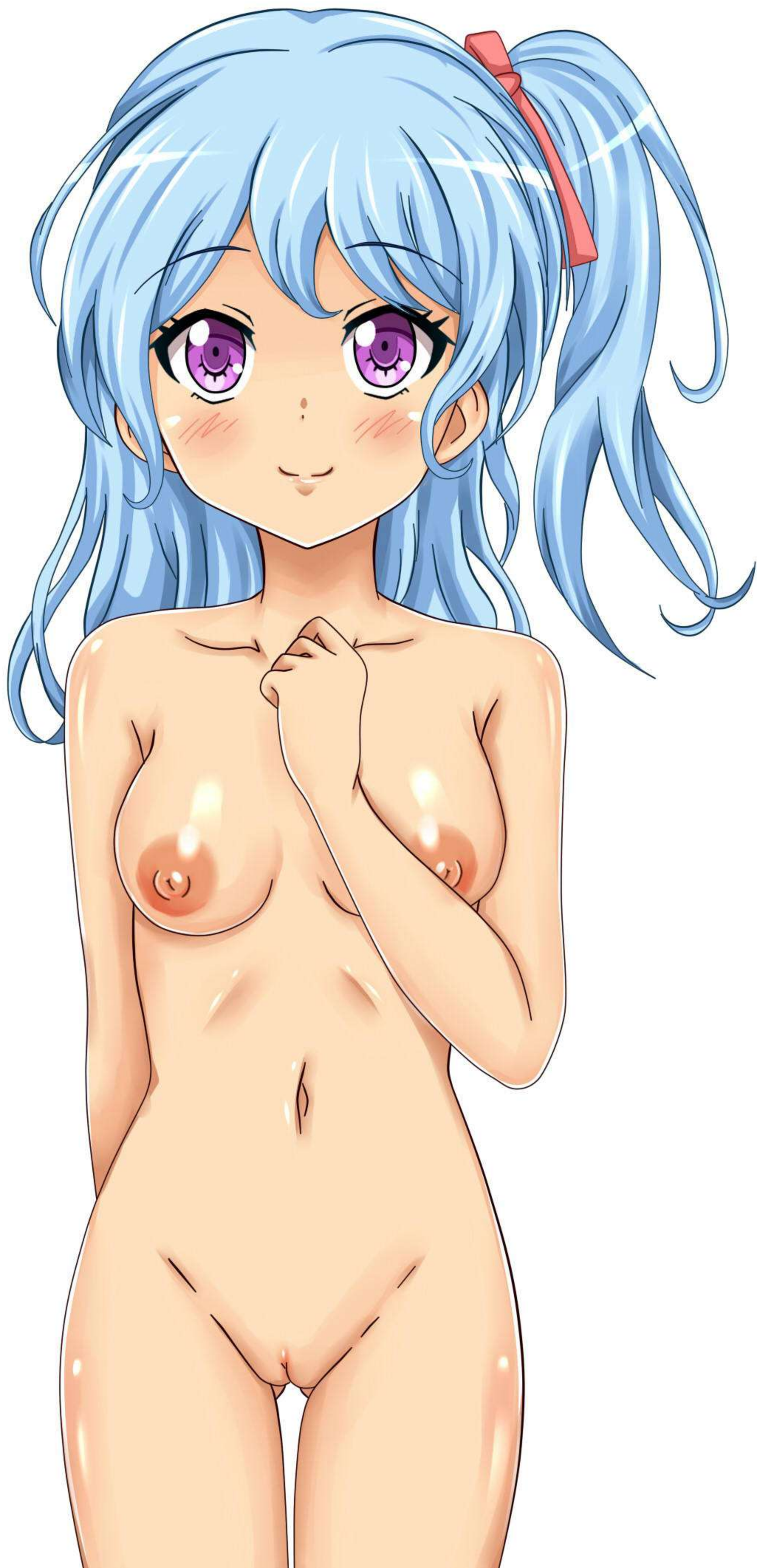


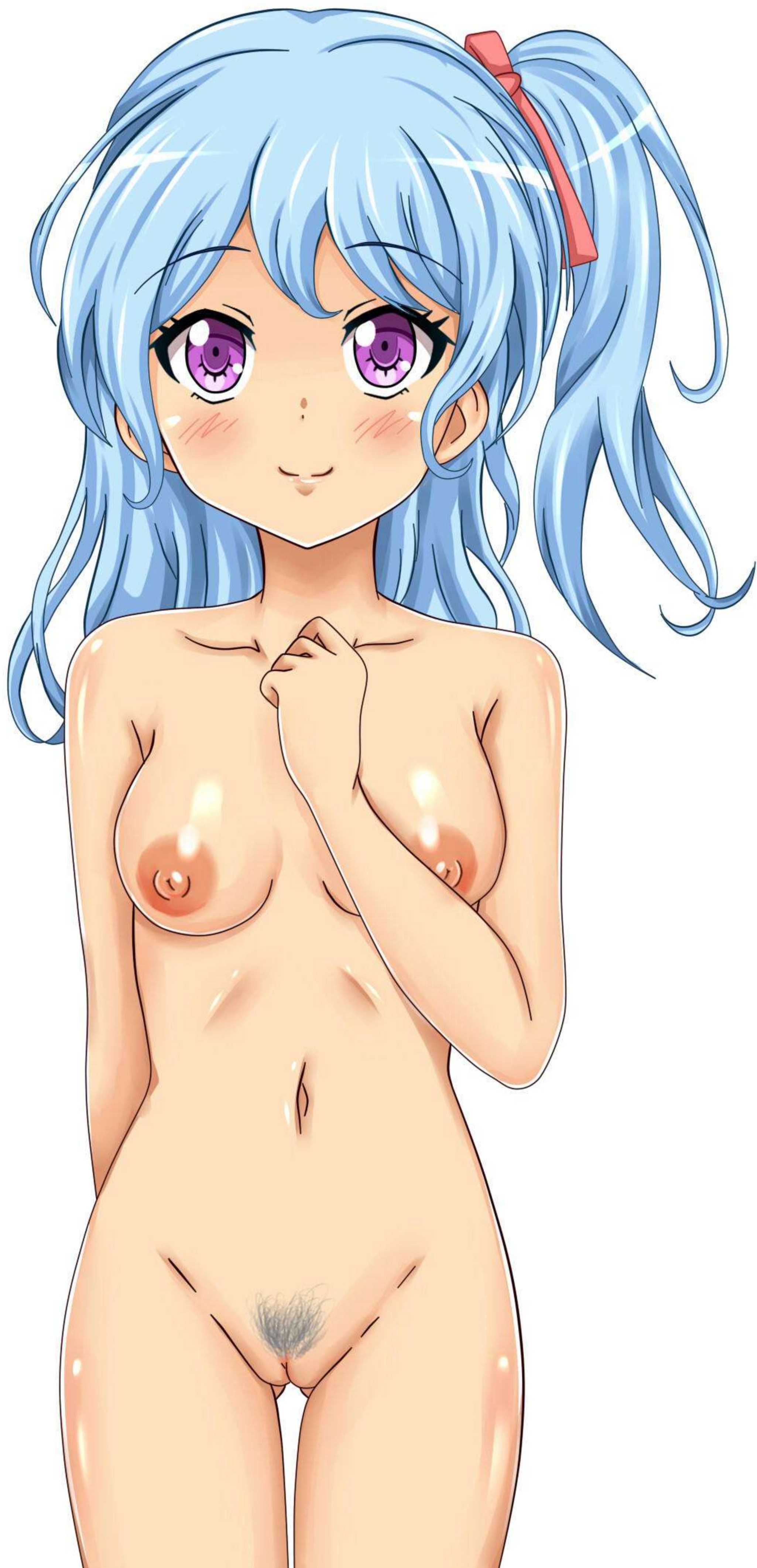












2019 1月 10日(木)



方向音痴娘に襲い掛かる送り狼編

追加シチュエーション

逃げられないようにする為スカートを脱がされ壁に立たされ辱められる花音。

更にお仕置きと言って

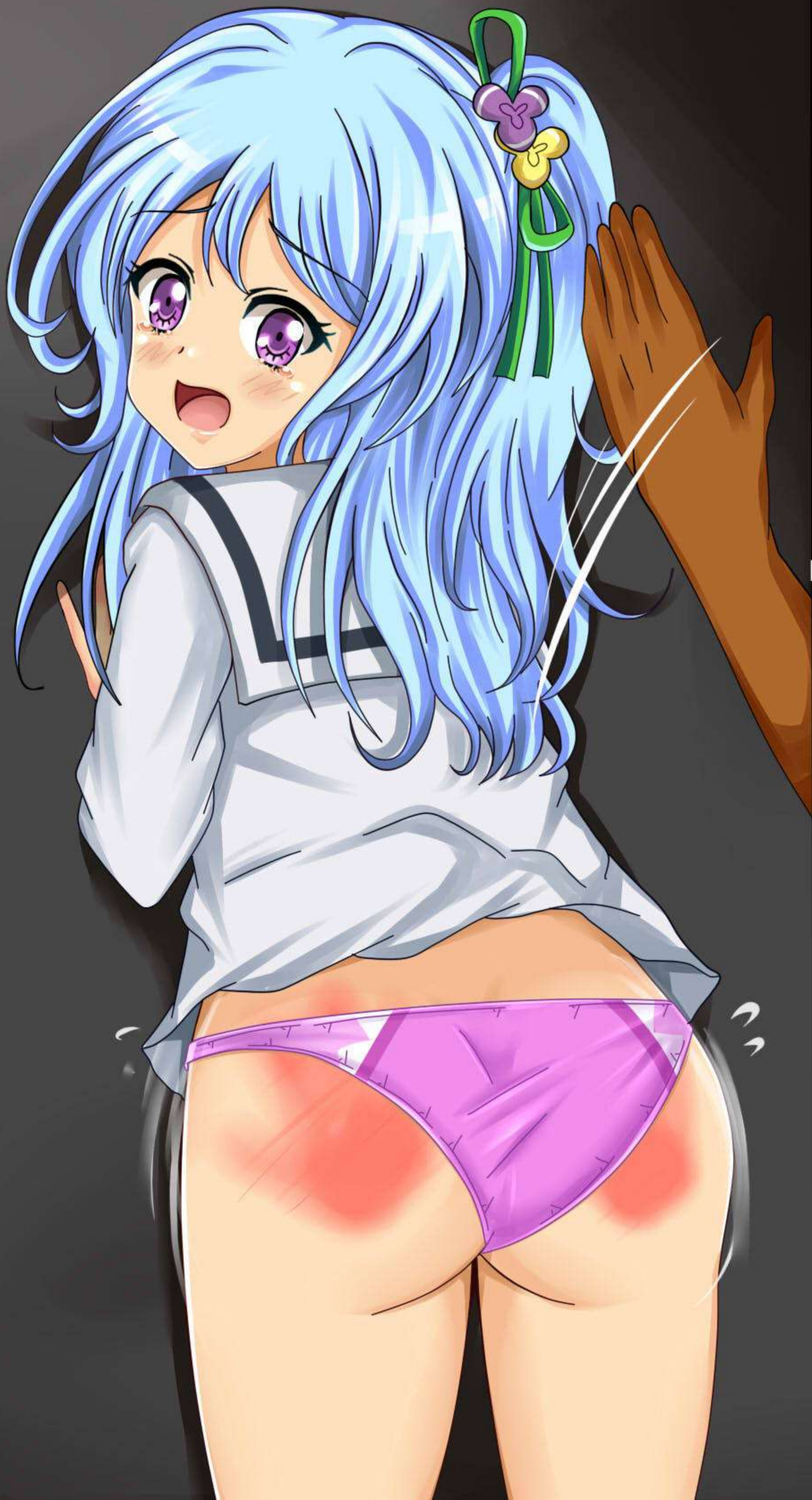
野蛮な男(後輩)にお尻ペンペンをさされてしまう。

(時系列的には①と②の間になります。)

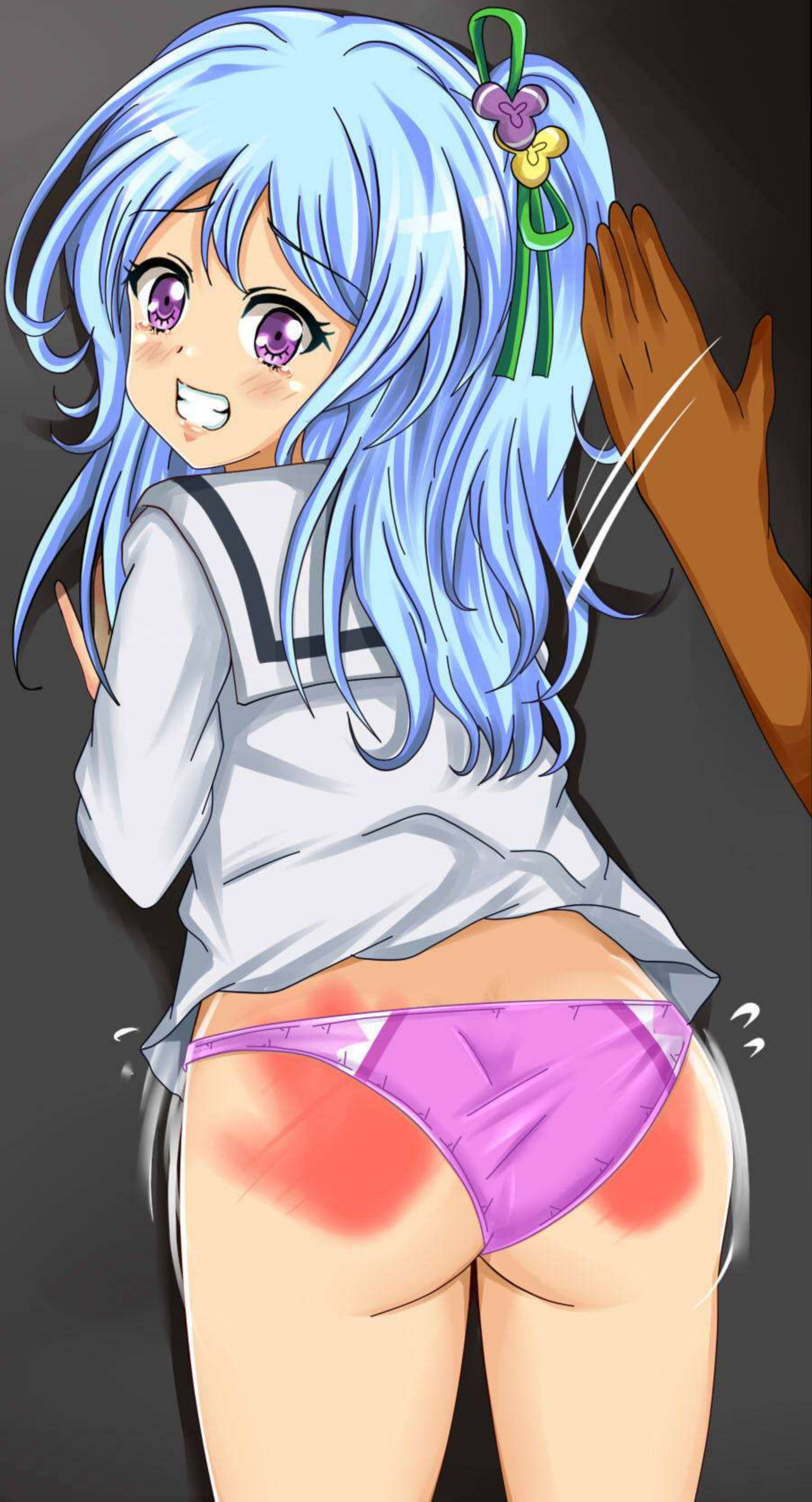
後輩「へへへ、これでもう逃げる事も出来ねえだろ。」
花音「いや……やだ……スカート……返してください……!!」



後輩「うるせえ！口答えするんじゃない！
バチンバチン!!
花音『いやあ！痛い！痛いよお！やめて下やい!!
やめてええええ!!』」



後輩「へへへへ：ブルンブルン弾むやわ尻！たまんねえぜ！」
夢中になって花音の尻を叩く男
花音「ああ！痛い痛い！痛いよお!!」
先輩「おい、もうその辺にしておけ、せっかくの綺麗な尻が台無しになるだろう」





後輩「先輩……うっす、すんません……!!」
花音「ううう! ひっぐ……!! ひっぐ……!!」
先輩「あーあ、可哀そうに、泣いてしまっってんじゃねえか。」

「ジョジョジョ……あまりのショックと痛みで失禁してしまった花音『あああ……うう……えっぐえぐ……。』」
先輩「あーあ、可哀そうにおしっこまで漏らしてんじゃないか。
いいか、女の子ってのはもっと優しく扱わねえと悪いんだ。」



先輩「ごめんね、お嬢ちゃん、あーあ、もうパンツが
オシッコでびちゃびちゃだねえ、これはパンツも
脱がなきゃね。」そう言っつて無理矢理パンツをひっぺがす男
花音『ああ…やだ…やだ…やだ…』



先輩「お前はこれでも嗅いでろ」後輩「クンカクンカ…。」
先輩「さあお嬢ちゃん、汚れた部分を綺麗に
してあげよう…。さあこっち向いて…。」
花音『は…はい…。』



次回

花音は男（先輩）におしっこで汚れたマシコをクンニーさせてしまった……！！

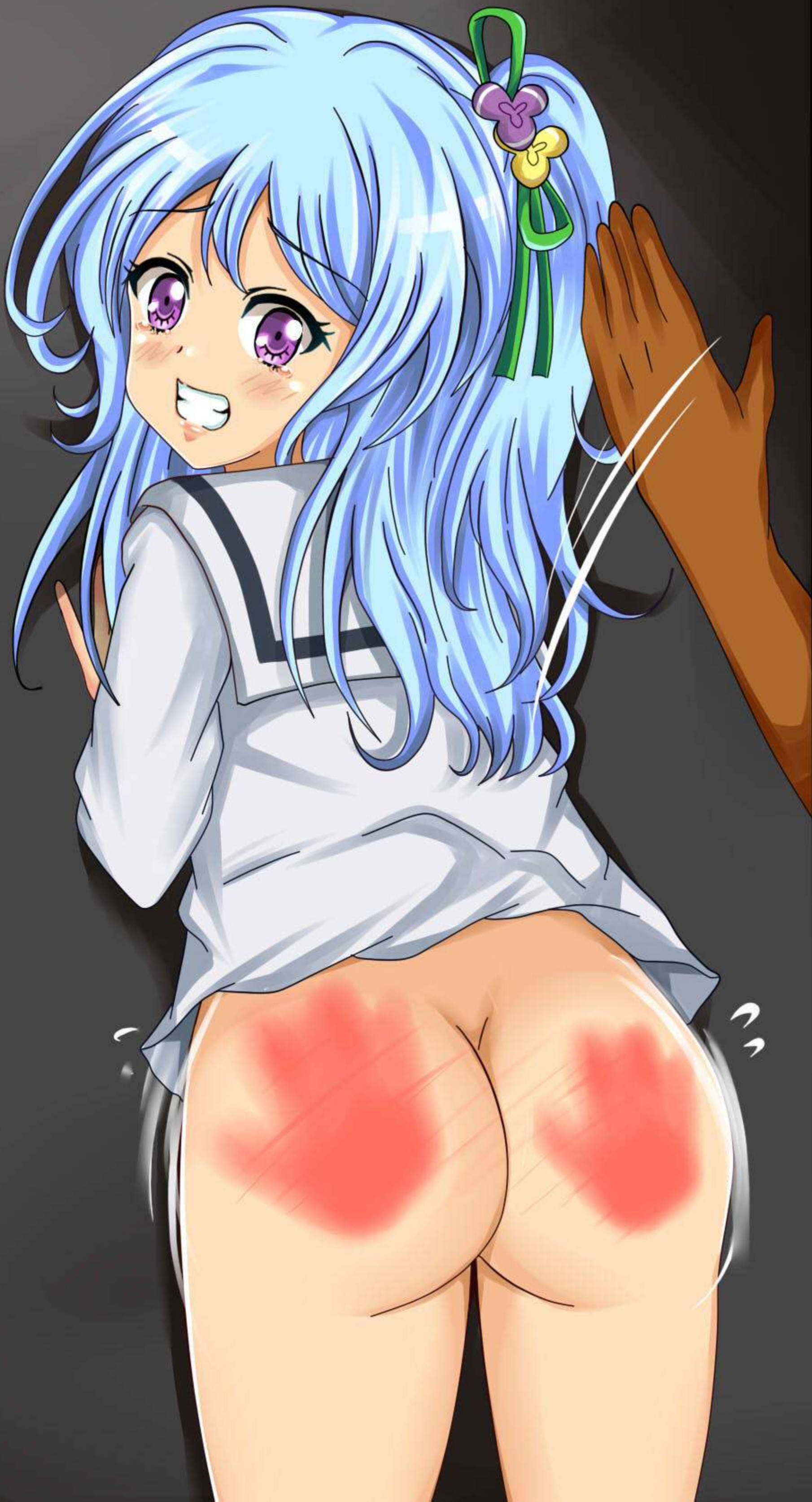


後輩「へへへ、これでもう逃げる事も出来ねえだろ。」
花音「いや……やだ……スカート……返してください……!!」

後輩「うるせえ！口答えするんじゃない！
バチンバチン!!
花音『いやあ！痛い！痛いよお！やめて下さい!!
やめてええええ!!』」



後輩「へへへ：ブルンブルン弾むやわ尻！たまんねえぜ！」
夢中になって花音の尻を叩く男
花音「ああ！痛い痛い！痛いよお!!」
先輩「おい、もうその辺にしておけ、せっかくの綺麗な尻が台無しになるだろう」



後輩「先輩……うっす、すんません……!!」
花音『ううう! ひっぐ……!! ひっぐ……!!』
先輩「あーあ、可哀そうに、泣いてしまっってんじゃねえか。」



「ジョジョジョ……あまりのショックと痛みで失禁してしまった花音『あああ……うう……えっぐえぐ……。』」
先輩「あーあ、可哀そうにおしっこまで漏らしてんじゃないか。
いいか、女の子ってのはもっと優しく扱わねえと悪いんだ。」













































先輩「あーあ、可哀そうにこんな濡れちゃって」

花音「ひっ……いや……いや……」

先輩「そんなに怯えなくていいよ、今から俺が綺麗にしてあげるからね。」

花音「ふええ……!」

花音（ああ……私……男の人に（マ○コ）……見られちゃってる……恥ずかしい……）





先輩「ペロペロ…ペロペロ…」
花音「やあ！何を…やめ！やめて下さい!!」
先輩「何って…綺麗にしてあげてるんだよ…ペロペロ…うん…うめえ…!!」
花音「いやあ…!!こんなの…恥ずかしすぎるよお…!!。」



花音『あん♡やめ！やめてくだっ…!!キャハッ！
くすぐったいですう！アハハ…!!ダメエエエ♡』
先輩(舐められて感じてやがる…思った通りの痴女だぜコイツ…♡)
花音(あん♡恥ずかしいのに…!!くすぐったくて！気持ちいい!!。)

花音『あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡もう！ダメエエエ♡
こんなのっこんなのってえ♡』
初めての快感に戸惑う花音。



花音『ああああっ！もうダメエ!!』
体を思わず震わせろ花音
先輩（お、そろそろか……!）



花音『ああああ！ダメEEEE♡ダメEEEE♡
こんあの！きもちよすひるよおお!!』
プッシャー！！花音が絶頂に達し、愛液を噴射した！





花音『ああやだ…恥ずかしい…こんなの
恥ずかしすぎるよお…えっぐえぐ…』
思わず絶頂に達してしまった自分を恥じてまた
泣き出してしまう花音…。



先輩「じゃあ次は俺たちを気持ちよくしてもらおうかな。」
花音『ふえ…は…はい…。あは…あははあ…』
頭が混乱して何が何だか分からなくなってる花音
花音(ああ…これから私…どうなっちゃうんだろ…)。

先輩「あーあ、可哀そうにこんな濡れちゃって」

花音「ひっ……いや……いや……」

先輩「そんなに怯えなくていいよ、今から俺が綺麗にしてあげるからね。」

花音「ふええ……!」

花音（ああ……私……男の人に（マ○コ）……見られちゃってる……恥ずかしい……）





先輩「ペロペロ…ペロペロ…」
花音「やあ！何を…やめ！やめて下さい!!」
先輩「何って…綺麗にしてあげてるんだよ…ペロペロ…うん…うめえ…!!」
花音「いやあ…!!こんなの…恥ずかしすぎるよお…!!。」



花音『あん♡やめ！やめてくだっ…!!キャハッ！
くすぐったいですう！アハハ…!!ダメエエエ♡』
先輩(舐められて感じてやがる…思った通りの痴女だぜコイツ…♡)
花音(あん♡恥ずかしいのに…!!くすぐったくて！気持ちいい!!。)

花音『あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡もう！ダメエエエ♡
こんなのっこんなのってえ♡』
初めての快感に戸惑う花音。



花音『ああああっ！もうダメエ!!』
体を思わず震わせろ花音
先輩（お、そろそろか……!）



花音『ああああ！ダメEEEE♡ダメEEEE♡
こんあの！きもちよすひるよおお!!』
プッシャー！！花音が絶頂に達し、愛液を噴射した！





花音『ああやだ…恥ずかしい…こんなの
恥ずかしすぎるよお…えっぐえぐ…』
思わず絶頂に達してしまった自分を恥じてまた
泣き出してしまおう花音…。



先輩「じゃあ次は俺たちを気持ちよくしてもらおうかな。」
花音『ふえ…は…はい…。あは…あははあ…』
頭が混乱して何が何だか分からなくなってる花音
花音(ああ…これから私…どうなっちゃうんだろ…)。

あ……あの……本当にするんですか……？
その……ウ……ウンチを……。

頼むよ、花音ちゃんの可愛いウンチ、
見たいんだ♡



（うう……この純粋な眼差し……断れないよお……）
わ……分かりました……そこまで言うのなら……
頑張り……ます。

本当かい！ありがとう……ああ……
花音ちゃんの可愛いウンチ……
楽しみだあ♡



う……うん……。

（そ……そんなにまじまじ見られると……
出るものも出ないよお……恥ずかしい……。）

（ハァハァ……!!花音ちゃんが力んでる姿……
なんて可愛いんだ……!!。）



A full-page illustration of a young anime-style girl with short, wavy blue hair and large purple eyes. She is sitting on a toilet, looking directly at the viewer with a neutral expression. She is wearing a brown school uniform jacket with a white collar and a red bow at the neck. Her white skirt is pulled down to her knees, revealing her buttocks. She is wearing dark blue thigh-high socks and brown shoes. A small flower with yellow and purple petals is in her hair. The background is a simple grey wall and floor.



ブボボ！ブビィ！！
（やダァ！おっきなオナラ！
恥ずかしいよお！！）

クンカクンカ！花音ちゃんのオナラ……！！
この世のどの匂いよりもいい香りだ……！！



ブビィ！ブウウウウ！！（ああ！止まらない！オナラ止まらないよお！！。）
イヤァ…！！そんなに一生懸命に
嗅がないでください…！！恥ずかしいよお…。

う…うめん…あまりにも
いい香りだったんで…！！



（あっ！出る！ウンチ…！！出る！）

（あ…嵐の前の静けさ…そろそろかな…♡
ドキドキワクワク…♡）



ああ……でるううう……!!
ブリュリリュリユウ!ブリュウウウ!!

ああ!可憐な花音ちゃんのお尻から出てるとは思えないくらいのおつとい一本グソ!
香りも豊潤で!たまらないよお!。



ふええ…！そんなマジマジ見ながら
実況しないでくださいいい…！！
恥ずかしいですう！！

ハアハア！！泣きながら脱糞してる
花音ちゃんたまんねえ！
（興奮しすぎて聞こえてない様子。）



ブリュウウウー！ジヨジヨジヨ…
堰を切ったようにウンチとオシッコが止まらない花音
（ああ…止まらない…ウンチもオシッコも沢山出てるよお）

ああ！極太の1本クソに続いて
女神の聖水も！ありがたやありがたや！！。



イヤァ…！そんな拝まないで！
嗅がないで！もう！バカァ…！！グスン…。

クンカクンカ…ありがたやありがたや…♡
（あの温厚な花音ちゃんが泣きながら
怒ってる…これはレア顔だ！可愛い…♡）



ハアハア!!や...やっとな終わったあ...
死ぬほど恥ずかしかったよお...

ああ...やべえ!もう我慢出来ねえ!!。



ふえええ！○○さん！いきなり
何を！！

ご！ごめん……!!花音ちゃんが
ウソチしてる姿を見てもう
我慢出来なくて……!! ショショ……ショショ……



（うう…：こんなの…：恥ずかしくって
見れないよお…。）
と言いつつチラチラと肉棒を見る花音。

ふふ…花音ちゃん、こいつを見てくれ…どう思う…!!
ふええ!そんな事聞かないでください…!!
ご…ごめん…



キヤア!!

ああ……!イク!イクウ!



〇〇さん……すごく笑顔です、
気持ちよかったですか？。

ああ……たまらないよ……♡
やっぱり花音ちゃんの
ウンチを見ながらのオナニーは最高だ……♡



いえ、気にしないで下さい
自分で拭きますから。

ごめん……そんな事よりかかったね、
拭くよ……。



じゃあお尻を拭いてあげよう♡
もう！それこそ自分で拭きます！
もう出て行って下さい！！



流石に怒られたのでしゅしゅ出ていくのでした。

おしまい♡

※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分



※おまけ差分





つ、い、え、え、つ、い、え、つ、い、え、つ

そこのかわいい
お嬢さん、りんご

はいらんかね？

つづつ ぷんぷんぷんぷん



そこのかわいいお嬢さん、りんごはいらんかね？



つ、い、え、え、つ、い、え、つ、い、え、つ

そこのかわいいお嬢さん、りんご

はいらんかね？



つ、い、え、え、つ、い、え、つ、い、え、つ

そこのかわいいお嬢さん、りんご

はいらんかね？